

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100632		
法人名	有限会社ミテラ		
事業所名	洛和グループホーム大津 2階		
所在地	大津市大門通り11-11		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果市町村受理日	平成30年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2570100632-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「職員と利用者が隔たりなく一体となって過ごすグループホーム」をホームのスローガンに掲げ日々のケアに取り組んでいます。職員側の業務と入居者さんの生活が分かれてしまっはケアをする側とケアをされる側という隔たりが出来てしまいます。出来る事は一緒にする。出来ない事でも共に過ごすことが隔たりのない関係作り繋がっていき考え取り組んでいます。生活の中で入居者さんの今を大切に、出来る事や感じていただける事を刺激するため家事や楽しみなどそれぞれ入居者さんの出来る事に合わせた支援を職員は日々話し合い実践しています。また皆さんのこれまでの暮らしや思い出を大切にしていこうという意味でもご家族やご本人との会話の中から私たちがケアとして実践できるものは何かを検討し外出支援に繋げたり、ホームでの生活に生かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、日々散歩時の近隣の方との挨拶や地域で開かれる祭りやフリーマーケット等の行事に利用者とお出掛けしたり、事業所に民謡や手品の披露、オカリナやハンドベルの演奏、蕎麦打ち等のボランティアの来訪、近隣の高校生の体験学習を受入れる等、地域との交流を活発に行い良好な関係を築くことで利用者へのサービスの向上に繋がっています。また外出支援にも力を入れ、ホテルでの外食を楽しんだり、季節に応じて初詣や花見、紅葉狩り、家族へも参加を呼び掛けて遊覧船に乗船に出掛ける等、出来るだけ外出の機会を多く作るように努めています。職員は年間の計画に沿って研修を受ける機会も多く、技能や知識の習得に励みながら協力して日々の支援に取り組み、理念にそって職員と利用者が隔たりなく一体となって暮らせるような事業所作り努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を元に事業所独自のスローガンとして「職員と利用者が隔たりなく一体となって暮らすグループホーム」を掲げケアの実践をしている。	法人の理念の基職員間で意見を出し合い見直した事業所独自のスローガンをフロア入口に掲示し職員への意識付けを行い、職員の入職時には法人の理念と共にスローガンに込めた思いを説明しています。職員の業務としてではなく利用者の生活への支援として考えながら日々取り組み、2か月に1回独自のシートを使い振り返りを行うことで理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日に自治会から利用者に花束が届いたり、近隣の方から菊の鉢植えを頂いたりという形で繋がっている。自治会の防災訓練や清掃活動には職員が参加している。	自治会に加入し、運営推進会議で地域の情報を得て行事などに参加しています。散歩の際に近隣の方と挨拶したり、事業所の前にある寺の祭りや地域で開催されるフリーマーケット等に利用者を出掛けています。民謡や楽器の演奏のボランティアの来訪や、近隣の高校生の体験学習の受け入れがある等、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、実際に起こったヒヤリハットや介護事故等を報告し、認知症のために起こりうる危険を説明したり、外出行事での課題点などを報告して理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告した事故や行事について客観的な意見を頂き、対策の参考にしている。	会議は自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等の参加の下2か月に1回開催し活動や利用者の状況の伝達、事故報告を行い意見交換をしています。地域の祭りや行事などの情報をもらい利用者に出掛けたり、近隣での清掃活動の案内をもらい職員が参加する等、会議を利用者へのサービスや地域との交流に活かしています。会議の案内は全家族へ送付し内容を伝えています。	会議に家族の参加がみられておらず、テーマや日程調整等の工夫により、参加が得られる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新書類の受け取りに直接伺っている。地域包括支援センターを通じて事業所での取り組みについては伝えているが直接のつながりについては課題と感じている。	運営上の手続きや書類の提出等で市の窓口を訪問しています。市の集団指導に参加して意見や情報の交換を行い、研修の案内が市から届いた際には必要に応じて参加することで協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の研修に参加し知識を深め、毎月のミーティングの機会に伝達を行って、個人の気付きで終わることがないようにしている。その人らしさと尊厳を守る意識を日頃から話し合うことで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年1回法人主催の身体拘束に関する研修を代表職員が受講し、事業所で伝達研修を行い内容を周知しています。事業所の会議でも注意喚起を行うと共に、言葉かけによる行動の制止が見られた場合はその都度注意しています。玄関やフロアの入口は開放し、外出希望の利用者には職員が付き添って散歩に出掛けることで気分転換を図り閉塞感のない暮らしへの支援に努めています。	

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催の研修に参加し虐待防止に努めている。入居者の外傷は必ず申し送り、万が一虐待の兆候が見られたときにも見逃す事が無いように事業所として虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも成年後見制度の利用を検討されている方もおられる。ご家族からの相談があれば制度についての案内もさせていただいている。事業所内で勉強会も開催を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時はもちろん、介護保険改正時等に変更があるときは変更点の説明を行い、ご家族の疑問点を解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの作成時には必ずご家族様の意見を頂いている。年1回、満足度アンケートを実施し結果を踏まえて職員間で検討しグループホームの運営改善に生かしている。結果等については運営推進会議やホーム便りでお知らせしている。	利用者からの希望や要望は日々の関わりの中で聞き食事や外出等に反映し、家族からは面会時や電話等で意見を聞いています。運動についての要望があり利用者個々の介護計画に反映したり体操の時間を増やす等、得られた意見や要望はサービスの向上に反映させています。年1回実施する満足度調査のアンケートでも家族から意見を聞き、結果を報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員ミーティング機会に意見が出せるように配慮している、。意見が出しやすいように事前に意見求めたり個々の考えが生かせるように工夫している。	フロアごとに毎月実施する会議や日々の中で随時職員から意見や提案を聞いています。行事や支援方法の提案を出し合い実際に取り組んだり、職員間で話し合い業務の配分を見直す等、意見をサービスや運営等に反映させています。書類整理や広報誌作成等の業務担当としても職員から意見が出され、年2回の個人面談でも意見や思い等を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己申告書や力量評価時に個別に面談を行い職員個々の働く環境についての意見ややりがい、課題について確認し向上心を持って働く事が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人のキャリアパスシステムに沿って職員の力量に応じた学ぶ仕組みがある。事業所内では個々の力量に応じて役割や業務分担力を発揮し向上していけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の機会での交流や同期入職など個々での繋がりはあるものの事業所として交流等の機会は少ない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約に至る前の段階に面談等で本人の情報を収集し、可能であれば本人からも不安や困っていることを聞いて、サービス開始時に安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談において、家族の本人に対する思いや入居後の要望等を確認し、グループホームに入居後に可能な支援について共に考えていける関係作りを意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等で得た情報を元に職員でカンファレンスを行い、本人や家族がそのときに必要としている支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあって生きるという考え方を大切にしている。利用者が自発的に行った行動を尊重し、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のケアプラン作成時には必ずご家族に意見を伺い共にご本人のケアを考えていただく機会としている。ご家族に担っていただけることはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が来訪されたり、一緒に外出したり、関係が途切れないよう支援している。	友人や知人等の来訪があり、リビングや居室に案内しお茶や椅子を用意しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。職員と自宅の近くで開催される祭りを観に行ったり、家族と自宅や外食、法事、墓参り等に出掛ける際には服装や薬等の事前の準備を支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時その時の利用者同士の関係を尊重し、対人関係のストレスを減らすよう気を配っている。孤立しがちだった利用者も、工夫して徐々に他利用者との関係が深まっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や連絡があればその都度相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活してもらえようコミュニケーションをとり、本人の希望を聞くように心掛けている。	入居時に自宅や施設等へ訪問し、面談で利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや希望等を聞きシートに記載し意向の把握に繋げています。入居後は利用者から聞いたり様子や表情から汲み取り、困難な場合も家族に相談したり、職員間で本人本位に検討して思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントシートやセンター方式を活用している。面会時に直接ご家族から以前のご本人の暮らしについて伺うなどして把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌を中心に日々の申し送りやカンファレンスで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成前の希望用紙にて本人、家族、主治医、訪問看護師から要望を受付けている。訪問歯科医の意見も反映している。	アセスメントを基に作成した介護計画は初回は3か月で見直し、その後は利用者の状態に変化がなければ3か月毎にモニタリングと評価を行い6か月毎に見直しを行っています。計画の見直しの際には再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や医師、看護師、訪問マッサージ師等の意見を反映し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを実践し、その結果や気づきを介護日誌に記録をしている。また引継ぎの際の申し送りで職員間での情報共有に努めている。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを心がけニーズに合せた柔軟なケアに努めている。その人に合わせて他職種とも連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡ボランティアに月に一度来てもらっている。他にも歌やマジックのボランティアなどの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員がご家族や主治医の意見を伝える役割と共に、ご家族と主治医が面談できる場を作っている。緊急時の搬送先の希望を事前に伺っている。	入居時に今までのかかりつけ医が事業所の協力医かを選択してもらい、現在は全員が協力医に変更し月2回の往診を受けています。緊急時は24時間対応で先ず訪問看護師へ連絡し対応してもらったり、医師に繋いでもらい指示を受けたり往診に来てもらうこともあります。専門医への受診は基本的に職員が対応し、結果等の情報は家族と共有しています。週1回訪問看護師の健康チェックや、利用者の状態や希望により歯科の往診で口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを活用し日常の特変事項はもちろんであるが、日常の生活の様子なども伝え少しでも多くの情報を共有できるように努めている。介護職員が判断できないような場合は随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し病院の相談員看護師との連携を図っている。退院に関しては早期から情報の共有を図れるようにグループホームからもアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を事前に把握し、必要時は主治医や関係者を交え話し合いや説明の機会を設けチームで支援している。	入居時に指針を基に看取り支援について事業所として対応可能なことを家族に説明しています。利用者の状態が進んだ際には家族や医師、看護師、職員と話し合い方針を決めています。家族の意向も確認しながら面会を増やす等の協力をもらい、医師や看護師からアドバイスを受けながら看取り支援に取り組んでいます。法人の看取りの研修を代表職員が受け、事業所で伝達研修を行い知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を受講し、緊急時の対応への知識を会得している。グループホームの職員対象の現任研修で医療について学ぶ機会がある、現場で分からないときは訪問看護師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の研修で緊急時の対応や応急措置等の知識を学んでいる。消防訓練を定期的に行い、また運営推進会議の際に課題点などを伝えている。	年2回いづれも消防署立ち合いの下それぞれ昼夜を想定し、利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火の等の訓練を実施し消防署員からアドバイスをもらっています。さらに年4回は事業所で自主的に訓練を行っています。運営推進会議で訓練実施後の報告を行うと共に、法人から防災面での事例を通じた注意喚起も受けています。	訓練実施時には近隣の方へ案内を行い参加してもらう等の協力体制の構築に向け働きかけられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重した声かけや対応について、カンファレンスの場で日頃のケアを振り返り、話し合う機会を設けている。また職員同士で日常的に意見交換している。	法人主催の接遇マナーの研修を職員代表が受講し事業所で伝達研修を行うことで内容を周知しています。丁寧に親しみのある言葉かけに努め、不適切な対応があればその都度注意し、職員同士でも注意し合っています。入浴や排泄時の声掛けは小声で行う等、周囲や羞恥心に配慮した言葉かけや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような声掛けや見守りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を聞き希望に沿ったケアを実践できるように心掛けている。起床、就寝、入浴、散歩など、なるべく本人のタイミングを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には化粧をしたり、その日着る洋服を一緒に選んだりしている。髪の毛のセットはなるべく自分で行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を一緒に行ったり、味見や盛り付けなどで食事の支度に関われるよう支援している。	献立は職員が利用者の好みや希望を聞きながら栄養バランスも考えて毎日決めています。食材は発注した物が週3回届き、利用者には下拵えや下膳等出来ることに参加してもらいながら事業所で作り、職員も一緒に食卓を囲み同じ物を食べています。おせち等の季節に応じた食事を作ったり、ケーキ等の手作りおやつ、年4～5回全体で外食に出掛ける等、食事が楽しみなものとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて食事量を把握し、主治医とも連携をとりながら健康管理を行っている。食事や水分摂取が進まない場合は、介助したり好きな物を提供したり工夫している。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科との連携を行い、口腔ケアの方法など教育を受け口腔ケアを行っている。利用者自身の歯磨きのあと、職員が仕上げを行って清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、出来る限り失敗を減らし、自分の力でトイレで排泄が出来るように支援している。	トイレでの排泄を基本とし利用者個々に排泄記録を取り排泄パターンを把握し、利用者それぞれに応じた声掛けやトイレへの案内をしています。排泄支援を継続してパッドの使用量が減ったり、日中は布の下着で過ごせるようになる等、排泄の状態が改善した方もいます。排泄用品の種類や支援方法等については日々職員間で検討し、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護との連携を行い、服薬調整や運動、飲食物を工夫し便秘が解消されるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人入浴の希望を聞き出来る限り希望に沿った時に入浴が出来るように努めている。	入浴は昼から夕方までの時間帯で週2回以上を基本とし、希望があれば回数を増やしています。入浴拒否が見られる場合は声掛けする職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理なく入浴してもらっています。好みのシャンプーやリンスの持ち込みも可能で、入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらったり、利用者に応じてシャワー浴や足浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況を見定めて休息したい方には時間を問わず休息できるよう支援している。不安で眠れない時はゆっくり話をして安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更が合った場合は回覧し、全職員が服薬について周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や、得意なことを生かせるようなプランを立案し、生きがいを持った生活が送れるように支援している。		

洛和グループホーム大津 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にドライブに誘い、希望の場所やなじみの場所に行けるよう支援している。行事で外出する際には事前に家族に伝え、希望があれば参加してもらっている。	気候の良い時期には日々散歩に出掛けたり、日常的にしています。初詣や桜の花見、紅葉狩り等の季節に合わせた外出も支援しています。職員と外食や博物館等に出掛ける他、家族も招いて遊覧船に乗ったり、家族と個別の外出を楽しむ利用者もいる等、出来るだけ外出の機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配をされることがあるが、金庫に預かっている事を伝えたと安心される。買い物に行く時は利用者を誘い、一緒に選び、支払いするよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、利用者の想いと家族の都合を考慮して電話をしてもらっている。また、知人に手紙を書く習慣を利用者が続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、一緒に作った作品を飾り、利用者が楽しめるよう配慮している。室内の温度や明るさは、利用者自身に尋ねながら、常に快適な環境であるよう注意している。	生花や観葉植物、雛人形を飾り季節が感じられ温かい雰囲気作りをしています。利用者同士の相性を考慮してテーブルや椅子の配置を工夫したり、エレベーターホールにソファを置き1人で過ごせる場所も確保しています。利用者も参加して毎日清掃をして清潔保持に努め、加湿器も使用した湿度管理や体感も聞きながら室温を調整し、採光にも配慮して快適に過ごせる共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性を観察して現在の席を決定している。利用者間のトラブルが起こった時は、さり気なく席を移動してもらったり、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りなじみの物を持参して頂くなど、本人にとって居心地良く過ごせるようにしている。	テレビや机や椅子、ぬいぐるみ等の馴染みの物を持ち込み家族が配置し、入居後の生活を見て暮らしやすいよう家族と相談し配置を変更することもあります。家族の写真や好きな歌手のポスター掲示したり、ラジカセを持ち込み楽しんでいる方もいます。希望により布団を敷いて休むことも可能で、清掃や換気を毎日行い清潔保持を心がけ、利用者が快適に過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室に表札をつけている。「トイレ」の表記は以前はしていなかったが、明記する事で自分でトイレと認識できることに気付き実施した。		